

令和7年度第2回大分県ツーリズム戦略推進会議 委員意見

日時：令和8年3月27日(金) 13:30～15:30
場所：大分県庁舎本館2階正庁ホール

項目	No.	発言の要旨	県の考え方
<p>議事 (1) 令和7年度大分県ツーリズム戦略関連事業実績(見込) (2) 県内宿泊者数の動向 (3) 令和8年度当初予算及び令和7年度2月補正予算</p>	1	<p>・統計データについてはデータでは見えない現場の声も含めて、しっかりトレンドを捉えておく必要がある。</p>	<p>・今年度はデータマネジメントプラットフォームを構築したので、これからはデータ分析とそれに基づいた情報発信も進めていきたい。</p>
	2	<p>・アドベンチャーツーリズム等のガイド育成について、研修会が連日実施されると仕事をしながらガイドもしている人は参加が難しい。1年かけて完了する研修制度のようなものを増やしてもらえると参加者も確保できると思う。</p>	<p>・実施方法については毎回検討を重ね多くの人に参加できるように工夫したい。</p>
	3	<p>・最近では旅行者もAIに旅行行程表を作成してもらっている。いかにAIが示す旅先の候補となれるか、そういった分析も必要になると考えている。 ・暑い夏の観光は大事。昼より涼しくなる夜を盛り上げていくことが効果的ではないか。海外は夜のアクティビティが楽しいところが多いイメージ。 ・中東情勢の悪化で燃料代が上昇している。そうなると近距離の方が選ばれやすくなるかもしれない。近隣のアジア圏のインバウンド対策の重要度が増す状況も起こりうる。</p>	<p>・来年度は国内ホームページの統合を考えているが、AI検索への対応も考慮したホームページを作成したい。 ・例えばナイトツアーとか早朝の散歩とか、工夫を凝らしたコンテンツを造成し誘客を図ることで滞在時間の延伸も目指したい。 ・中東経由のヨーロッパ旅行者の減少が懸念される。東アジア、東南アジアあたりにもしっかり誘客をしかけていきたい。</p>
	4	<p>・情報発信でインフルエンサーを活用している事業があるが、誰が情報発信するかよりも誰に対して情報発信するかといった事の方が重要と考える。インフルエンサーのフォロワー数よりもどういう人にフォローされているのか、その観点からインフルエンサーの活用を進めるべき。</p>	<p>・県の情報発信のアカウントを一つにまとめた方が良いのではないかという議論もあったが、内容によってフォロワーの性質も異なるのでいくつかが管理した方が良いなど、これからもより効果的な発信方法を考えながら情報発信を行っていきたい。</p>
	5	<p>・昨年10月に杵築市の観光コンテンツを作成して釜山とソウルに集中的に発信した。海外に向けた情報発信はどの国、どの都市に力を入れて発信するかまで想定すると良い。</p>	
	6	<p>・最近では福岡から団体バスで来県する韓国の旅行者が多い印象だが、ランチ難民になってしまう。また、そもそものバスの置き場がないため、福岡から日帰りでの旅行になっている。 ・ほとんどの旅行者が複数回、大分を選んでくれているので、そういった方に直接リサーチしてなぜ大分を選んでくれたのかという事を調べると良い。</p>	<p>・韓国についても戦略パートナーと連携しながら泊数を伸ばせるように戦略を練っていきたい。 ・文化的アプローチをしながら消費動向を変えて行ければと考えている。</p>
<p>報告事項 (1) 宿泊税について (2) 県観光の推進体制強化について</p>	1	<p>・宿泊税の用途について、地域の人たちが観光に携わって本当に良かったと思えるように、しっかり地域が潤うような使い道を検討してもらいたい。</p>	
	2	<p>・例えばOTAのクーポンで宿泊料金がかなり割安になるケースがある。元の宿泊料金に基づいて宿泊税を徴収することに宿泊客が納得するのか、その辺りの周知に不安を覚える。</p>	<p>・旅行者の方へはわかりやすい周知を心掛ける。 ・フロント業務に携わる方についてもQ&Aのようなものを作成して負担を減らしていきたい。</p>
	3	<p>・ツーリズムおおいたの機能強化として地域マネジメント部が新設されるが、どのような業務を想定しているのか。</p>	<p>・観光事業者、市町村、観光協会、DMOとの円滑なコミュニケーションの構築 ・広域にまたがる観光ルートの形成</p>